

# 心不全パンデミック

## —レジストリー研究から傾向を探る—

東北大学大学院医学系研究科循環器内科学分野

三浦 正暢, 坂田 泰彦, 下川 宏明

### KEY WORDS

- 心不全パンデミック
- 虚血性心不全
- HFpEF
- 質的変容

Heart failure pandemic: findings from the registries.

Masanobu Miura (特任講師)  
Yasuhiko Sakata (准教授)  
Hiroaki Shimokawa (教授)

### はじめに

わが国は、世界に先んじて超高齢社会に突入し、また、生活習慣の欧米化や治療法の進歩などの要因が複雑に絡み合い、慢性心不全の臨床像の変化について、数的増加のみならず、その質的変容にも注目が集まっている。今後心不全患者の増加に伴う医療・介護負担の増大が予想され、この「心不全パンデミック」にいかに対応するか、その具体的な解決策が求められており、レジストリー研究から得られる知見は、その解決策の一助になると考えられている。本稿では「心不全パンデミック」の潮流を踏まえつつ、わが国の心不全コホートとして、第二次東北慢性心不全登録(Chronic Heart Failure Analysis and Registry in the Tohoku District-2; CHART-2)研究<sup>1)-7)</sup>を紹介し、超高齢社会を迎えたわが国の心不全診療の現状に関する最新の知見を紹介する。

### I. 心不全パンデミックの現状

これまで、世界中で「心不全パンデミック」について報告されている。たとえば、米国では現在約510万人が心不全を有し、2030年にはその数は800万人に達すると推計されている<sup>8)</sup>。また、欧州では、心不全の有病率はおおむね1%半ばとされており、その割合は高齢になるほど増加する<sup>9)</sup>。アジアに目を向けると、中国では、心不全の有病率は1.3%と報告され<sup>10)</sup>、欧米とその頻度に大きな差を認めないが、マレーシアでは6.7%、シンガポールでは4.5%と高い有病率であることが報告されている<sup>11)</sup>。

わが国における心不全症例の正確な実数は明らかではないが、新潟県佐渡市で行われたSado Heart Failure Studyのデータを基にしたOkuraらによる推計<sup>12)</sup>では、日本における収縮機能不全および拡張機能不全を合わせた左室機能障害症例は2005年から2025年